

# TTC 提案山行実施記録表

2019年7月4日 M.H

山行名	白馬槍温泉の麓、三白平トレッキング・花巡り						[長野県/1,600m]		
実施日	2019年6月22・23日[土・日]一泊二日								
天候/参加人員	天候 : 6/22 曇り、6/23 曇り レベル : ★★ 参加 13 名								
パーティスタッフ	省略								
参加メンバー	省略								
費用 19,500 円/人	◆集金 : 253,500 円 (@19,500×13 人) ◆支出 : 253,276 円 [支出内訳] ・マイクロバス費用 : @29,808×2 日 ¥59,616 高速料金(圏央厚木～安曇野往復) : @6,080×2=¥12,160 ドライバー謝礼 : 20,000×2 日=¥40,000 宿泊加算 : ¥2,000 ドライバー宿泊費 : ¥7,500 ガソリン代 125×560/5km=¥14,000 ・ペンション、テントキーパー宿泊費 : 7,500×13=¥97,500 ・ガイド料金 @1,500×13=¥19,500 ・通信費 : ¥1,000 ※残金の¥224 をカンパ金とする。								
所用時間	6月22日(土)			6月23日(日)					
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動			
計画	2:30	0:30	3:00	5:30	1:30	7:00			
実行	1:50	0:10	2:00	6:45	1:15	8:00			
実行コースタイム記録									
◆6/22[土] 本厚木====初狩 SA====諏訪湖 SA====安曇野 IC====セブンイレブン====林檎舎==== 6:57    8:13-8:22    9:40-9:50    10:18    10:35-10:45    11:45-12:30 (昼食) 1:50 テントキーパー====姫川源流・親海湿原散策====テントキーパー 12:40-13:10    13:30    休憩 10    15:30-15:43(宿泊)									
◆6/23[日] (累積標高差 上り 818m/下り 818m/歩行距離 7,5km) 2:20    1:25    4:00(休憩:1:00) テントキーパー====猿倉-----小日向の科尔-----三白平-----猿倉====安曇野 IC==== 6:20 発    6:52-7:00    9:20-9:35    11:00(昼食)    15:00-15:10    15:40-15:55 =====諏訪湖 SA=====本厚木 17:20-40    21:00									
概要・特記事項・反省事項等									
梅雨真っ盛りのこの時期、天気予報とにらめっこの毎日だった。TTC 山行が次々と天候によって中止に追い込まれていたのが、あきらめの境地の参加者もいたようだ。しかし、大雨の予報はなかったのが、実施を決めた。 マイクロバスでは、M さんが持参して下さったギターで懐かしい歌を歌いながら、修学旅行気分を味わった。途中、初狩 SA と諏訪湖 SA に寄りながら、安曇野 IC で高速を降り、セブンイレブンで翌日の昼食を調達し、昼食場所の林檎舎に向かった。席に着き、メニューを見て、ざるそばとそばがきしかなく、てんぷ									

らそばを食べようと思っていた人をがっかりさせてしまったことと思う。ただ、くるみだれそばは、たれもそば自体もとてもおいしかった。

ペンションに着き、荷物を整理して必要なものだけを持ち、身軽な格好で姫川源流、親海湿原に向かった。オーナー兼ガイドの北原さんは白馬山案内人、県自然観察インストラクター、白馬マイスター、野鳥の会会員という肩書で、自然のことなら何でもござれ、という方だった。歩きながらたくさんの植物や樹木の名前、その由来なども教えていただいたが、とても覚えられなかった。たくさん見られた中で、印象に残っているのは、大きく成長し、山菜のごみとは似ても似つかぬ姿のごみ、エビラフジ、クサレダマ、トキソウ、サギスゲ、サワギク、ナルコユリ、まるで、ジャングルの中の植物のように育ったミズバショウである。シダは3種類覚えておくようにと言われ、しっかり頭に入っている。表と裏の模様があまり変わらない、リョウメンシダ、羽を広げたクジャクのようなクジャクシダ、根本が十文字になっているジュウモンジシダである。春先には、一面フクジュソウが群生すると聞き、その時期にまた訪れたいものだと思った。樹木については、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、カラコギカエデ、ヒトツバカエデなど、カエデの種類がたくさんあることを知った。ハルゼミが鳴く平野を流れる姫川源流と、たくさんの樹木や草花、虫(蛇の抜け殻も)を観察することができた親海湿原の散策は日頃の山行と違ってのんびりとできたので、こういう山行もたまにはいいのでは、と思った。ペンションに戻り、入浴後、創作料理が評判の夕飯は、山菜が6種類、肉と魚の料理に古代米のごはん、というものだった。私は、十分堪能することができた。夕飯後はペンションが貸し切りということもあり、Mさんのギター伴奏で歌を思い切り楽しんだ

23日は、朝食後6:20にマイクロバスで出発し、30分ほどで猿倉に到着後、準備体操をして歩き始めた。いつになったら三白平に着くのだろうというほど、3時間の登りはかなり長かった。雪渓を何度か超えたが、アイゼンは履かずに済んだ。また、途中のミズバショウやサンカヨウ、キヌガサソウ、フタリスズカ、ニリンソウなどの大群落に感動しながら歩けたことで疲れは感じなかった。珍しいザゼンソウやそれ以外にも、オオサクラソウ、ムラサキヤシオなどが見られた。北原さんのガイドで、途中から道なき道を歩くことになり、ニリンソウを踏みながらの山行となってしまった。「ごめんね。」と言いながら歩く女性陣の姿が見られた。どこが三白平かと北原さんに聞くと、「この辺一帯を指す。」とのこと、かなり広範囲の場所を指すことがわかった。私たちはシラネアオイの群生地です昼食を摂り、白馬槍の雪景色とともに集合写真も撮った。そこで、今まで知らなかったユキザサやウドブキ、アザミなどの山菜も教えていただいた。朝の内は、白馬山の雪のまだら模様が見られたが、時間がたつにつれて霧に覆われてしまったことは残念だったが、雨に遭うこともなく、来た道を猿倉まで3時間かけて歩き、帰途に着いた。

今回の山行では、雨に遭わず二日間を過ごすことができたことが本当にありがたかった。また、今まで見たことのないような花の大群落を見ることができたのは、地元ガイドの案内でなければ行けなかった三白平に行けたからこそである。CLとしては手抜きだったが、ガイドさんにいろいろなことを教えていただき、皆さんも満足されたことと思う。天気を心配しながらの実施だったが、バスの中での皆さんの明るい会話やMさんのギター伴奏に励まされたことを始め、すべて順調にこなすことができ、無事山行を終えることができたことを心から感謝している。